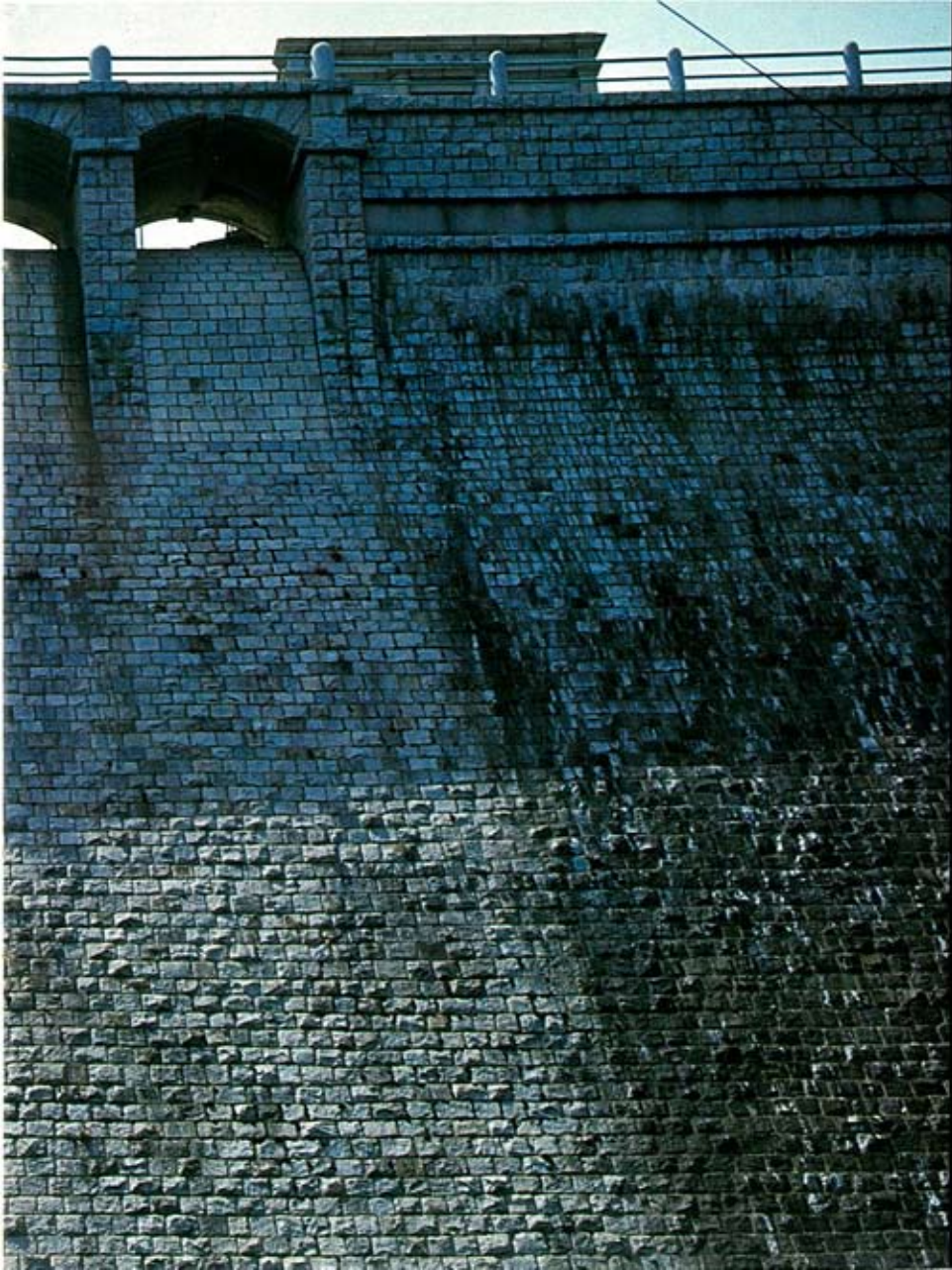


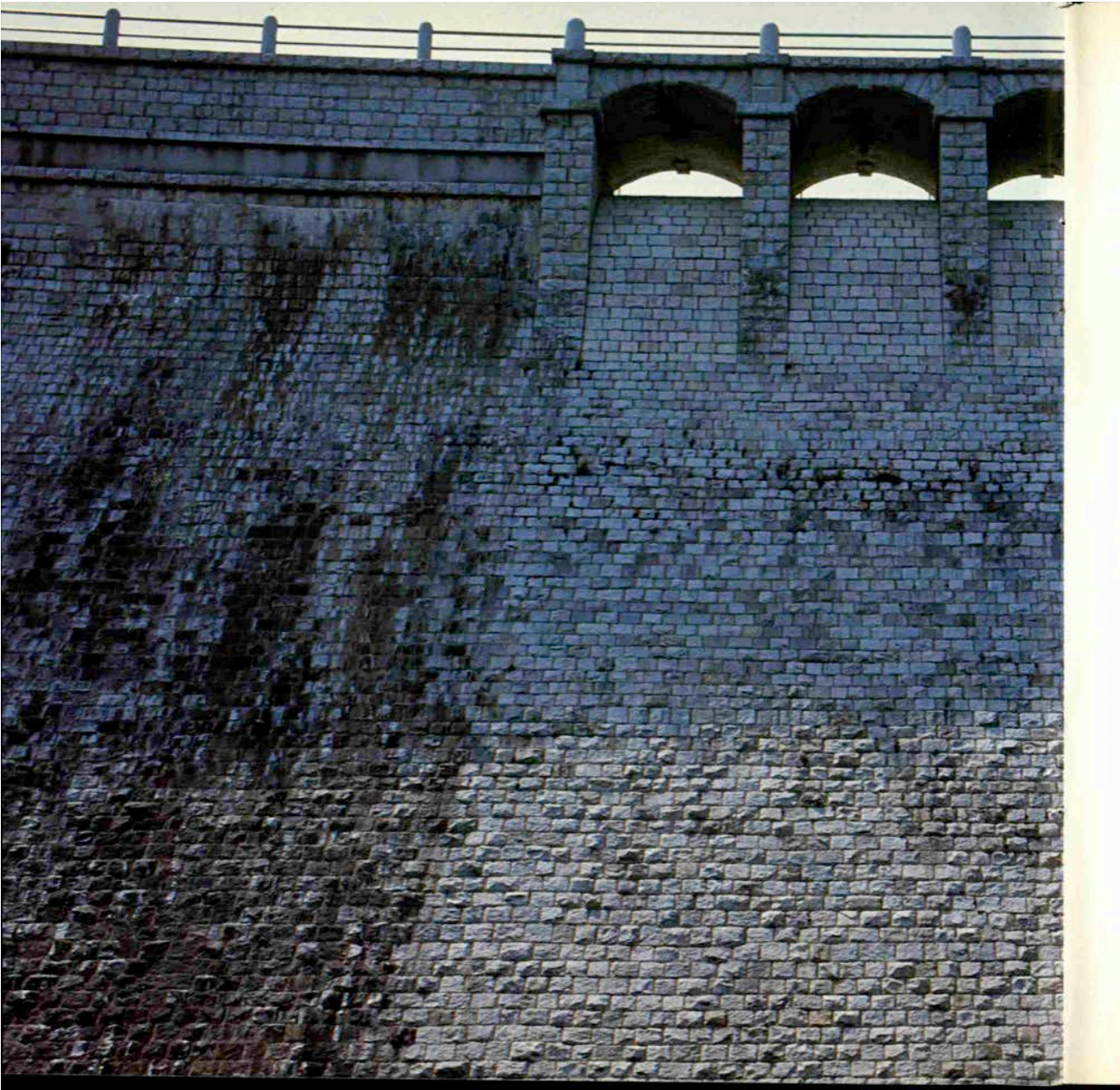
神戸のディテール

Detail of KOBE 47

石阪 春生

写真 / 杉尾友士郎





男の生活

ゆとりある人生のために
アウトウェアとしてのシャツ



世界のオシャレをお届けする

ウネ
KOBE LINE

本店・神戸元町1番街・078-331-3112
別室・元町1丁目(穴門筋)・078-332-2800
東急百貨店・渋谷店・日本橋店・札幌店・吉祥寺店

精神的ゆとりを大切にする男たちのプライベートタイム“良き時間には良き相棒”を——そんな方にお勧めしたいシャツ達。これらは、着こなし方、時間、場所ひとつで、どんどん表情を作ってくれる頼もしい仲間だ。男の伊達を感じさせてくれる粋な装いは、余裕派には欠かせない。



Lothar|s TARIS-ST-TRÖTEZ

その洗練された感覚を、粋を。 ヴィヴィッドなパリのジーンズ。軽やかで明るい色、伸びやかな形、肌になじむ素材。紳士、婦人、子供…ご家族で、お楽しみ下さい。豊かな心がよく似合う。

Sanohe

本店 元町二丁目
TEL 078 (331) 4007(代)



out door life

光のシャワーをあびて

あふれる光の中で、
素敵におしゃれして
"あなた"を思いっきり
輝やかせてみませんか。
〈リザ・サロン〉はもう夏の気配。
ぜひご来店ください。

素敵なカタログをご用意しております

三宮 **センタープラザ** 3階 FASHION PARK

リザ・サロン 神戸本店

センタープラザ		さんプラザ
4F 駐車場		
3F	LIZA	
2F		
1F	ルイシヤンタン	

■さんプラザ西隣 ■お車でお越しの方は、
4F 駐車場をご利用ください。

■神戸地区リザ・サロンのご案内: 神戸本店 / 神戸大丸店 2F / 神戸そごう店 2F / 長田大丸店 1F / サービス提携店・センタープラザ 1F ルイシヤンタン



トータルコーディネートサロン
LIZA
PRESENTED BY WORLD CO. LTD

■神戸本店: ☎078(391)6806(代)
営業時間: AM11:00~PM8:00/定休日: 第3月曜

これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の手帖です

5月 目次

表紙 / 小磯良平	9
セカンドカバー / 山本文彦	
神戸っ子 / 南 和恵 / 弘井俊雄	13
ある集い / 南童美術館友の会	15
コウベスナック	16
イメージの神戸(2) / 元永定正	18
神戸のディテール(47) / 石阪春生 / カメラ・杉尾友士郎	27
私の意見 / 妹尾美智子	29
随想 / 前川治美 / アレックス橋 / 中川勢津子	32
ある集いその足あと / 南童美術館友の会	33
私の交友録(2) / おおらかな明治の友情 / ハナヤ勘兵衛	34
神戸女学院と神戸(4) / 有島武郎と女学院 / 高道基	36
関雪と神戸 / 橋本健一	38
経済ポケットジャーナル	41
インタビュ / グローバルレディⅢ・笠井紀美子	42
'77神戸まつりガイド	46
花まつりに神戸酒祭り / 園田正和 / 藤間緑寿郎 / 羽多悦子	56
キャンペーン / ファッション都市神戸を考える(22)	52
ファッション都市づくりへ持続したエネルギーを	54
米花穂 / 朝比奈隆 / 石野成明 / 菊水啓輔 / 諸岡博熊	56
座談会 / 海に魅せられた男たち	57
林 牧章 / 藤原保之 / 森田純三 / 森美久幸 / 鎌田賢次	58
ノコの華麗なる挑戦(1) / 護身術入門 / 小山乃里子	64
話題のひろば(1)「環状彷徨」上梓さる	72
(2)「全の針」實セリザワに	73
コウベファッションレポート	74
アンド&神戸(1) / 伊勢功一 / カメラ・米田定藏	80
MODE MARCHEN(5) / 藤原順子	84
神戸の催し物ご案内(50)	87
人間模様(第16回) / 石野信一 / 文・重森 守	108
動物園飼育日記(18) / 亀井一成	107
神戸の集いから	111
神戸っ子トラベルコーナー	112
ファッションレポート / 藤本ハルミ「流れる季節に……」	120
よせて / 山本芳樹	122
K・F・Sニュース	126
かわいそうなアリス(5) / 岡田 淳	125
神戸を福祉の町に(4) / 橋本 明	128
淀長立見席(63) / 淀川長治	130
女性百景(57) / 細川 董	132
びっといん	135
神戸白店会だよ!	137
ポケットジャーナル	138
連載小説 ベントの背景(2) (第一回神戸女流文学賞受賞	142
作品) / 小島弘子 / 絵・南 和恵	143
連載小説 島之内ブルース(終) (第一回神戸文学賞受賞作	148
品) / 田原 新 / 絵・中西 勝	153
トイ&トイ	153
アルバムレットアベニュー(B) / Photos 新井 満・石阪春生	168
海船港 / ロイヤルバイキングスカイ号	166
カメラ・米田定藏 / 藤原保之 / 橋本英男	163
目次作品・構成 / 丸本 耕	

H S EKTACHROME B FILM





●世界のまつりが集って……

5月13日14日15日

'77太陽と海と花の祭典
祝神戸まつり



珈琲のほんものの味を



ハチオン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

食欲のある人は美しい。
と、男性は思っている。



- (トータルコーディネートサロン)LIZA
- (婦人服飾)東京屋
- (舶来靴専門店)Pia
- (アクセサリ雑貨)ルイ・ミッシェル
- (ジーンズショップ)AOYAMA EIKO
- (COLLEGE SHOP)CABIN
- (婦人ブティック)ラ・ガミヌリー
- (婦人靴)東京銀座ダイアナ
- (ヤングアダルトファッション)ルベール
- (ヤングアダルトファッション)ランプ
- (ファッションバッグ・アクセサリ)美呂
- (婦人)原宿CAN
- (婦人服)銀座ゲルラン
- (レディース・ファッション)新宿高野
- (おしゃれな靴の店)BONフカヤ
- (コンテンポラリーファッション)ザ・コレクション
- (レディース・ファッション)東京ギンザ三愛

FASHION PARK

神戸・三宮さんプラザ・センタープラザ3F

光の中の パールファンタジイ

Pearl Fantasy

真珠の6月におすすめしたい金子真珠のさわやかな初夏のコレクション。

おさそいあわせて神戸オリエンタルホテルへお出かけ下さい。

●真珠の月

展示会のお知らせ

6月2日(木)→3日(金)
10時→6時

オリエンタルホテル
〈粗品進呈〉

— 真珠＊宝石 —

 **金子真珠**

御影サロン

神戸市東灘区住吉町堂ノ本1824 〒658
電話 078 (811) 2819・2881



☆私の意見

市民の手で守り

育てる神戸まつり

妹尾美智子

〈神戸市婦人団体協議会専務理事
神戸まつり実行委員会委員長〉



神戸まつりは市民参加が建前ですが、実際には一三六万全市民の直接参加はまず不可能ですね。だから、市民参加といいますがそれぞれの立場で、直接何かをやる、まつりを見てその楽しさを味わう、また、郷愁でまつりを思い起こして貰う、まつりに心を寄せて貰うなどとそれなりの参加の仕方があるわけですね。

みんなに見て貰うまつり、直接参加をして楽しむまつり、そして、まつりを家庭に届けるといふか、家庭のなかに入っていくまつり、この三つが神戸まつりの核といえると思います。

今年は、神戸まつりのために集った七千人ほどの若者が「グリーンパイプ」というグループをつくり、大倉山の公園で「フアニーガーデン」と名うって催しをやる予定になっていますが、若い人たちがまつりのために一つになって、神戸まつりを守り、育てて行こうという気運が出て来たこと、今までは自分たちだけでやって楽しんでいたまつりから、みんなに楽しんで貰おうという気運へ変化して来たことは大きな特色ですね。

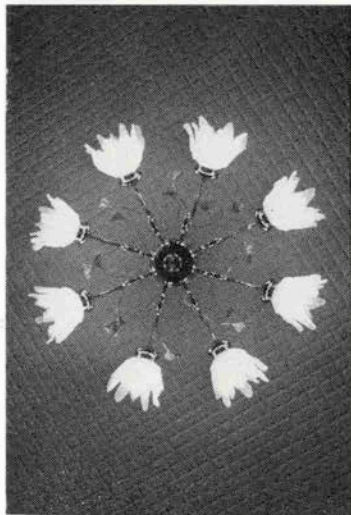
直接参加するまつりということでは、今年の中央パレードは時間を短縮し、その分、見て楽しんでいただけるプログラムを編成しています。大人の部と子供の部に分け、個人でも参加できるような場をつくりました。特に強調したいのは各区のまつりですね。どこの地区も一人でも参加しやすい雰囲気づくりで楽しいまつりをつくりあげています。

家庭のなかに入り込むまつりとは、たとえば、「広報こうべ」で神戸まつり特集を組んでいます。紙面に神戸まつりの旗を刷り込み、子供さんがそれを持ってまつりに参加していただけるようにしています。

昨年は色々問題が起ったのですが、何としても存続させたいし、本当にまつりを待ち望んでいる方々が多勢いらっしゃるし、何よりも今、まつりをやめたのでは暴力的に市民の善意が負けたことになります。みんなで市民のまつりを守り育てて行こうではありませんか。(談)

こうべに神戸らしい店を…

KOBE
NIKKEN



店舗装備のプロフェッショナル
(株) 神戸日建

本社 神戸市灘合区御幸通3丁目2-20
〒651 ☎ (078) 251-3525(代)
東京 東京都杉並区成田東5-39(201号)
営業所 ☎ (03) 393-1577番

コーヒーショップ「8 番館」(中山手)

随 想

ローズガーデンからの便り



え・前川清明（ぎやるそんぬ）

さりげなく

粋な街

前川 治美

△ニットショップ「ぎやるそんぬ」▽



時間に追われ、季節に追われた仕事をして七年余り、このへんで百パーセント自分らしく、通常の商感覚を無視してどこまでできるものか挑戦してみても、ローズガーデンに顔を出した訳だが、果して我を出した商売——カッコよ

くいえば、本来オリジナリテイのあるブティックの姿勢、この仕事を始めてから感じている現在のファッションに対するストレスとでもいうのかしら——にはむかないのではないかと躊躇もあったのだが、結果的にはそれがローズガーデンの街づくりのポリシーにつながり、共感し合えた訳である。

物を売る前に必ず創ることが前にある状況は変えようのない現実なので、オープン前一カ月のあわただしさは、ユックリズムをマイペースとしている私にはたまらなくハードなものだった。といっても、一つひとつ新しい事を始めるためには、これも常のことながら

三才になる息子には少々迷惑。しかし今では保育園の帰りには、大好きな絵本やミニカーのおもちゃたちが部屋で待っているにもかかわらず、ローズガーデンに寄っていろいろと居心地の良さ、ファミリーっぽさを感じとって大いに気に入っているようです。中央のフロア、階段、通路が彼の遊び場になり、どこにいるのかわからないのに声が響く非常に便利な建物ゆえのことだろう。

オープンして驚いたことに、年令はほぼ同じ、それぞれにユニークで楽しい、まるで昔の学生時代にかえったようなハッピーな人達の寄り合い世帯なのである。もともと神戸っ子的気質といえる協調性なのだろうか、共に絵かき志望で浪人生活を送っていた私たち夫婦が行動を開始した時の雰囲気があるところにあるようだ。ある意味では限られた人々との接触、お互いに影響しあえるふれあいを育てていくなかで、新しい商業の質を模索し、長い時間をかけて評価され、周囲を動かす力、その過程とその結果がそれぞれのタレント性を発掘しあっていますます素晴らしい空間になっていくだろう。

過大評価されがちな北野町、神戸のほんの小さな粋の中でもっとも自然な街に、さりげなく粋でありたいと思っている。

生活のなかに 生きる素材

アレックス・楊

ハヘアークラフトインクサロン
「アレックス」



マテリアル（素材）を無視して

良いデザインはできない！これはえてして今の文化において一瞬忘れてしまいそうなことである。

私は、以前ニューヨークで三年程生活をしてしたが、そのなかで非常におもしろい発見をした。それは、色々なデザインのなかでアメリカと日本とが全く入れ替わってしまったように感じられたことである。日本ほどデザインについて素材を重視した国は数少ないように思う。日本家屋、履き物、食べ物など、どれをとってみてもそれぞれの持つ素材を大切に扱っていることが深く感じられたのだが、今ではあの伝統の浅い、近代文化をもち、全てが合理主義であったアメリカに、逆に素材の大切さを教えられる面が多くなったということだ。日本の昔からの生活習慣にあったあの静（ま）やかな空間美、狭いスペースだからこそ空間を生かして

それに合う素材のインテリア、私たちが今一度原点に帰って考えたいですね。

ところで最近、神戸でもますます街づくりなどと声高くいわれているが、その街のもっている特有の環境（素材）を無視して、いろんなコンテナボックスを持つてきてはいけないと思う。北野町の異人館が思い浮ぶが、ただ古くなっ



北野の異人館通りにオープンしたローズガーデン

た建物を眠ったまま保存するのではなく、家（素材）の主張を良く吟味して復活すべきだと思う。どんなに素晴らしい家であっても、人間が住めないのではやはりただの建物にしか過ぎない。ローズガーデンについても数々の問題点があり上げられているが、私もテナント、デザイナーである限り、その街がもっている環境（素材）

を大切にしたいと思う。ローズガーデンが一日も早く街に溶け込み、良いデザイン観と作品とをもって活動すべきだと考え願っている。そして今までに住んでいた人たちが、自分の庭の屏ばかりを高くすることでなく、オープンで、陽の当る環境（素材）の北野町そして神戸の街を大切にしてヒューマンライフスペースにデザインしてゆきたいものである。

視点を変えてみて、私は、ヘアデザイナーの仕事をしている関係上、ヘアに対するファッションを考えるのであるが、考えていくうちに一つひとつの発想なり疑問が全て素材というものにつながってくる。街で見かける女性の、あの必要以上に真黄々に染めたヘア、何故自分のもっている艶のあるヘアをもっと大切にしないのかと思う。外国の街でも良くこういう日本女性を見かけるが、側に居る外人は私に聞く。「あの人は何処の国の人？」日本人で、髪を染めているのだと答えると、信じられないという顔をして「私は日本人の黒髪が好きだ」とポツリといった。無理もないと思う。多くのデザイナーは外国雑誌を見てその本筋をキャッチングしてないからである。私もこの業界に入ってから間もない頃、女性が美容室から出て来た時のヘアスタイルを

見て、何て滑稽なんだろうと思っ
た。歩いて服が揺れているのにも
故へアだけが全く動きを失ったよ
うに作るのだろうかと思った。でも
その当時私たちが教えられたもの
は、そういうものばかりだった。

数年後ある映画で、女性が雨に打
たれたヘアードザインのシーンに
何ともいえない生きた美しさを感じ
た。その後私のデザイン観は、
素材の良さをもちと大切に、雨風
に吹かれてもその時々々の自然に合
うデザインをチャレンジしてい
る。神戸に生まれ育った私のデザ
イン観である。

なにいろの

風が……

中川勢津子

△メルヘンシヨップ
▽ラディッシュ・ハウス▽



先日、TVでビートルズの映画
「LET IT BE」を偶然見
ていて、ポール・マッカートニー
が歌う「THE LONG AND
WINDING ROAD」
を何年ぶりかで聴くことが出来
た。私は、ビートルズの信者では
ないけれど、ビートルズの歌の中

でもこの曲が好きで、他のシンガ
ー、たとえばジャズっぽいフィー
リングで歌うナンシー・ウィルソ
ンのもの等も、かえって原曲の良
さをあらためて感じさせる結果に
なりビートルズの「スゴサ」にお
どろいたりしてしまう。

ところで、映画の中でポールが
歌う、「THE LONG AND
WINDING ROAD」を聴
きながら、私は何故か、白い陽射
の中でひっそりと続いている北野
町の坂道を思い出していた。

神戸という様々な顔をもつ都市
の中でも「北野町」は独特のニュ
アンスを感じさせ、訪れた人はそ
のたたずまいにいい知れぬ魅力を
おぼえるのが常である。

それは、京都、大阪の町にない
要素が散りばめられ、たとえば、そ
ここに点在する異人館を「点」
とするなら「点」と「点」を結ぶ
坂道と、まだ緑が住居と共にある
斜面がつくるスペースには△さり
げなき▽と静かな△豊かさ▽がつ
くられたものにはない確さで漂っ
ていたりするからだと思う。

一年前までは、私にとって「北
野町」はいわば憧れの非常に一方
的な恋人のようなものであった。
その後一つの出逢いがきっかけで
現在「北野町」に小さなスペース
を持つこととなり、ちよūd子子供
が長い間待ち続けていたブレゼン

トを手渡された時のような感じと
でもいったらいいのだろうか。

しかし、今の私にはもう恋人で
あった「北野町」を外側から憧れ
のまなざしで見ていた時のように
は視ることは許されないし、日毎
に良きにつけ悪きにつけ話題と
なっている「北野町」の小さなメ
ンバーの一人として、この春時か
れた「ローズガーデン」という種
子が決して悪い種子でなかったこ
とを「北野町」という土壌にあら
たな豊かさをつけ加え、優しく開
花すること私の小さなスペース
を通じてコミュニケーションして
いきたいと思っている。

「北野町」には似合わないものが
いくつあかつて、△巨きなもの▽
△騒々しさ▽、△粗悪なもの▽、
△ギラギラしたもの▽などはその
一例だと思ふ。そこに生活する愉
しさと、生活というものの新しい
ありかたを含めた、ゆるやかな変
身であってほしいというのは「北
野町」を愛する多くの人の共通項
ではなからうか？

今新しい風がたしかに吹きはじ
めている。でもその風がなにいろ
の風になるかはこれからの大切な
課題である。スピード第一の時代
は終わったのだから曲りくねった長
い坂道を、自分の足で歩きながら
△明日▽流れる風の色を、ハート
で感じてほしいと念じている。

□ある集いその足あと

南蛮美術館 友の会

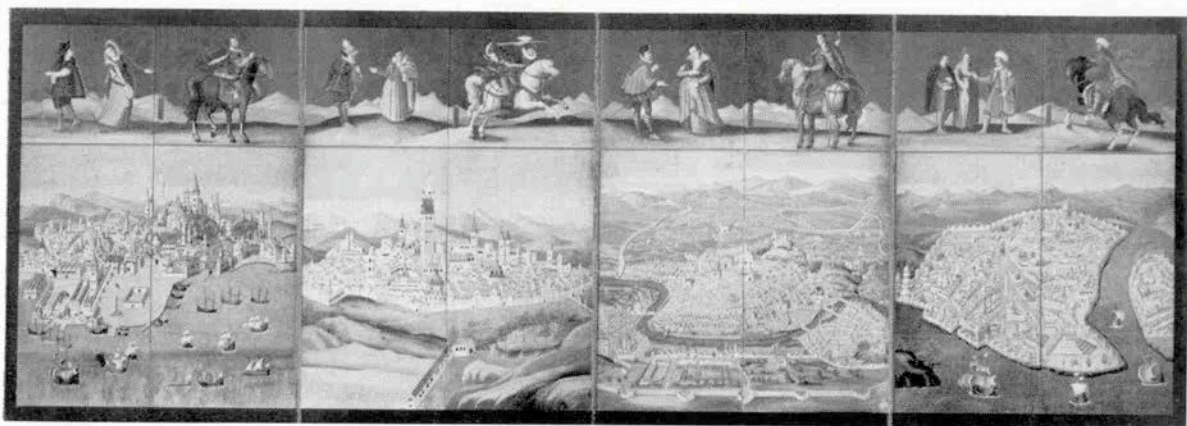
神戸ほど（特に阪神間には）、

小規模ではあるが特色を持った美術館が多い街はめずらしいのではない。白鶴、滴翠、香雪、大谷小原流記念館……そして、この神戸市立南蛮美術館。

南蛮・紅毛美術品の收藏の多彩さで有名なこの美術館は昭和26年に、池長孟氏より寄贈された市立神戸美術館が前身である。その26年に友の会も誕生した。今年で満26才になるわけだ。

建物も收藏品もそっくり神戸市に寄贈されたものだけに、吹き抜けやモザイク模様、大理石の棚台など古き良き時代の面影をそっくりそのまま持つてる美術館。それにふさわしく、こちらも紳士淑女ぞろいのゆったりとしたおおらかな集いである。

特にここ10年、活動は非常に活発で、月一回の例会には、各地の古美術めぐりや旅行など内容も多彩になっている。台湾に美術観賞旅行にも出かけた。会員数は二百余名。常時、五十人以上の参加があるそうだ。



美術を愛し、神戸を愛し、そんな仲間たちの集いには創立当初からの会員の方々も多く、ご高齢ではいらつしやるがチームワークのかなめとして、つねに活動の中心になっていらつしやる。そういう年齢の幅があるだけでなく、職業も幅広い。「美術館としては年一回の企画展しかないのであんまり特典もないんですが、世話をしてくれてる二代の女性学芸員の努力や会員の協力で、本当の意味の友の会活動ができていると思えます」と菅瀬さん。

将来は東京銀行跡の博物館に收藏品もろとも移動するわけだが、設備も充実し、活動にもデッサン教室とか絵画教室とか色々幅が出てくることだろう。

入会は随時可能。

ポルトガル、オランダなど海外の、目を見張るような生活と文化を眼のあたりに見た15世紀頃の日本人が、自分たちなりに修得した芸術が南蛮・紅毛美術。いうなれば東西文化の融合文化である。いかにも港都神戸らしい收藏品である。それだけにこの友の会、望むらくは、今後は若い人々にも多く参加してもらってより一層の歴史をつづつてもらいたい。

■連絡先 神戸市立南蛮美術館

術美古 骨董
 劍古 美術
 刀書 画董



鍔
 十六間小星甲付

金
 百五拾萬円也

鑑定 買入

刀劍研磨その他工作

一カ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀古骨
 美 劍術董
 〒650

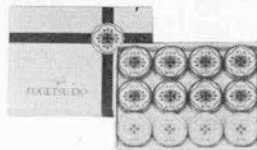
元所美術

TEL078-351-0081

冷た〜く冷やして……!

ファミリー
 セット

プルルンと甘くてなめらか…プディング
 ほのかで上品な小豆の香り…水羊羹
 良質の大納言小豆……………あずき



* ファミリーセット (6缶入 ¥1000 ~ 18缶入 ¥3000) *



創業80周年

80



神戸 月堂

神戸元町3丁目 ☎ (078)391-2412

おおらかな

明治の友情

ハナヤ勘兵衛 △写真家▽

「この海が世界に通じ、神戸は日本の玄関」という頃のお話である。やはり今から考えると、おおらかなで有り難い時代であった。その時はそれで当り前、別にナンとも思わなかったが、住み良く、暮しよい神戸であった。

写真も、中板の暗箱に大きなレンズをつけ、黒い布を冠ってピントガラスを覗く。映像がピントガラスに逆さに写るので勝手が悪いものだが、それを野外に持ち出して一日にせいぜい拾枚も写してくるのである。宝塚の少女歌劇も、フィナーレに全員整列してポーズ、それを中板の暗箱で「ハイただ今」と写す。それが新聞に使われるのであった。

さて昭和四年夏、中山岩太さんが芦屋に移ってこられたのを機会に、芦屋カメラクラブが会員六名で誕生した。やっぱり中板の暗箱で港の風景を写したり、外人ダンサーを招いて写したり、健康なヌード写真の研究や、飽きのこない静物作品など、それぞれ個性味に溢れた作品を制作していった。翌五年には写真展を神戸で写真展を二回開

き、写真集も六年の四月に刊行した。

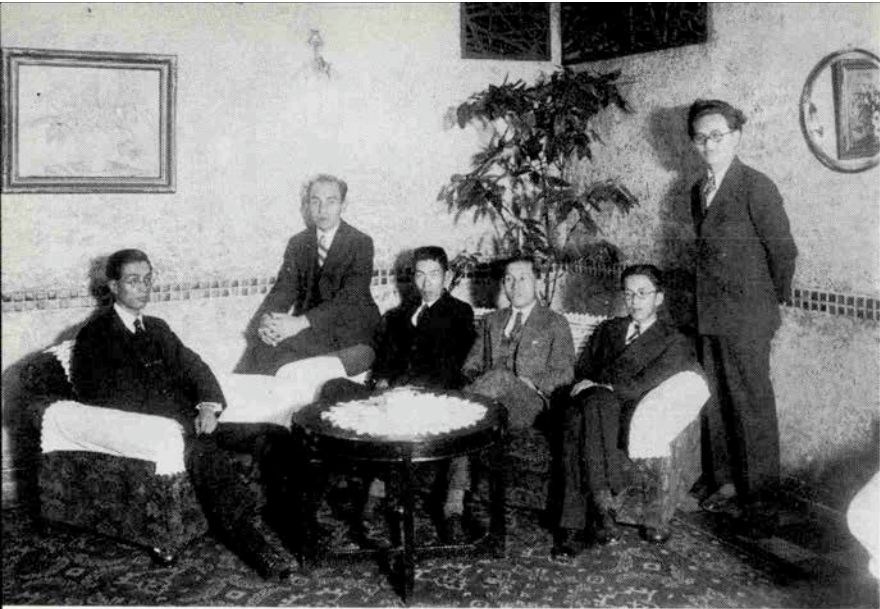
中山岩太さんは明治二十八年生まれ、東京美術学校の写真科を卒業後渡米し、ニューヨークで営業写真家のスタートを切った。その後パリで婦人雑誌フェミナの嘱託となり、新しい芸術写真運動を続けて昭和二年帰国。朝日新聞主催の国際広告写真展で一等に入賞されたのである。

この時の有名な「福助タビ」の作品は、足袋の裏を美しい黒の線で生かし、単純明快に、しかも強く表現されたもので、撮影に使ったカメラは、エルネマン会社の手札判、レンズはF8、取枠は一枚しかついていない中古品のオンボロ安カメラである。「カメラだけ高価なものを持っていてもアカン」ということであった。賞金一千円は、当時として莫大な額で、東京朝日新聞社での授賞式の夜は悪友どもが沢山集ってきて、二次、三次の祝賀会になったという話である。勿論その賞金は無事に芦屋まで帰らなかったという。

その中山さんが「今、子供が生まれた」と言っ
て私方に來られたことがある。夏のこと、浴衣

を裏返しに着ておられる。(昭和七年) よほど嬉しかったのであろう。それにしても私方まで五、六丁の距離であった。中山さんは昭和二十四年、54才で逝去されたが、現在は長男の巖さんが立派にその跡をつぎ、国画会写真部会員の重鎮で関西方面の中心的存在、まとめ役を果しておられる。私は今、明治のおおらかな友情と有り難い時代

昭和5年、神戸銀水(勲銀地下)での菅屋カメラクラブ会員。
左から高麗清治、ハナヤ勲兵衛、紅谷吉之助、橋本好文、三浦
義次、中山岩太



を想い起こしている。

西の菅屋カメラクラブでは、紅谷吉之助、高麗清治両氏の経済的支援で、室内撮影会がスムーズに成りたっていた。五十一年六月、朝日新聞から出た「全関西写真壇五十年史」によると、菅屋カメラクラブは昭和六年から十六年まで毎年東京で写真展を開いている。東京をすませてから地方展をする。八年には菅屋カメラクラブ満州展を、大連、奉天、新京、東京と持ち廻っており、十年以後はアシヤ写真サロンの呼称で作品を全国一般から公募し、各地で展覧している。東京―大阪間を十二時間汽車時代に、紅谷さんと私とは興行係よろしく各地を廻っているので、ヤハリ写真狂の仲間に入りそうである。

また東の東京では、野島康三さん(菅屋クラブ同人)が大きな存在であった。木村伊兵衛さんは「野島さんは梅原龍三郎、富本憲吉氏らとも親交があり、ピカソや梅原、富本氏らの作品のほんものがその部屋を飾っていたのである。そして写真の情熱は大変なものだった」。また伊奈信男さんは「私は、日本の近代写真の歴史をかえりみるとにそれに対する野島さんの大きな貢献を思い、同時に充実した野島サロンの集りをなつかしく思うのである」。特に梅原龍三郎先生は「国画会の創立は野島康三、福原信三両君の友情と経済的援助に因って生れたものである。両君は偶然大なる写真狂であった。かくして他に類を見ない美術展覧会の写真部が誕生した……」と書いておられる。

これらの偉大な先人のおおらかな友情が、色々の因と縁につながり、半世紀たった今でもその恩恵がエンエンとつづいているのである。

□神戸女学院と神戸△4▽

有島武郎と女学院

高道

基

△神戸女学院大学教授▽

え・伊藤慶之助



明治39年に建てられた葦光館。右は有島武郎

田山花袋の「蒲団」の中に次のような描写がある。

「芳子は町の小学校を卒業するとすぐ神戸に出て神戸の女学院に入り、そこでハイカラな女学校生活を送った。キリスト教の女学校は他の女学校に比して文学に対してすべて自由だ。文部省で干渉しない以前は教場でさえなくは何を読んでも差しつかえなかった。学校に附属した教会、そこで祈禱の尊いこと、クリスマスの晩のおもしろいこと、理想を養うということの味も知って、人間の卑しいことをかくして美しいことを標ぼうするという群れの仲間となった。」

文中最後のくだりはいかにも本能暴露を人間性の真実とする自然主義作家らしいコメントである。それはさておき、この作品をとおして見るならば神戸女学院は明治三〇年代の後半にすでにかなりの「ハイカラ」イメージでとらえられているし、又当時女子教育界のスローガンであった「良妻賢母教育」に対して、自立した感情生活に關しては自由な校風であったことがうかがえる。事実、宗教活動とならび「文学会」を中心とした生徒たちの文化活動は年々華やかさを加え、ことに一九一五年（大正四年）の史劇「春日局」、英対話「ベルセフォネ」

の舞踊劇の公演は、満堂の賛嘆を集めたという。

大正期のベストセラー作家である有島武郎がしばしば女学院を訪れるのもこのころである。彼の「観想録」には大正六年三月の備忘に次のような記録が英文で記されたまられている。

「ロシアの革命。ロマノフ王家の没落。父の百日忌。母と三人の子らが熱海より来る。アメリカがヨーロッパ大戦に介入しドイツに対して宣戦布告。神戸女学院で講演」

世界的にも身辺的にも有島にとってきわめて重要な意味をもつこの三月の出来事の末尾に、女学院講演をつけ足すほどそれは印象的だったと思われる。

講演当日の日記には短かく

「約五〇〇の聴集に若干の感銘をあたらう。午後、原の家へ赴き、ヒルサイド（諏訪山か）を散策。（略）のち木村を訪ねレストランにて十時まで語る」

とあって講演のテーマについてはふれていない。ただここに木村とあるのは札幌農学校以来の盟友で、当時女学院で自然科学を担当していた木村得治のことであろう。この人の口からでもあったであろうか、有島は当日の講演に意外のリアクションがあったことを知らされた。そのことは帰京のち一友人にしたためた彼の書簡の中にある。そこには

「神戸女学院での講演ははしなくも院長はじめ女宣教師たちの御機嫌を斜めにしてしまったことは笑止の至り……」（四月六日付）

と有島は少しこだわっているようだ。ただ同じ書簡の中に、この日の講演はいずれ『New Asia』という雑誌にのせる予定と書いている。この雑誌を探してみたけれどまだ見付かっていない。だから勝手な臆測になるのだが、大正六年といえは有島は戯曲「死とその前後」を書き、小説「カインの末裔」を発表している。文学活動によりやくフル・エンジンがかかりはじめたころである。しかし文学的確立とは逆に、彼のキリスト教信者と

しての素朴な信仰は決定的な動揺をはじめている時期でもある。三月「新潮」に発表された「聖書の権威」という短文は、当時の彼のキリスト教観を示す一番たしかな資料のようだ。その中に「私の心の中では聖書と性欲が烈しい争闘をしました。芸術的衝動は性欲に加担し、道義的衝動は聖書に加担しました。私の熱情はその間をどう調和すべきか知りませんでした。而して悩みました。」という一節がある。青年時代以来の彼のひそかな苦悩である。彼はやがて「惜しみなく愛は奪う」（大正九年）を発表してキリスト教をはなれてゆくが、この本の構想に約五年がついやされているから、有島は女学院の生徒たちにも彼の苦悩を率直に語り、きく者も大きな同情をもって耳を傾けていたかも知れない。聴集の「感銘」はそこから生まれたのではないだろうか。

一方女学院も亦転換期にあつた。第一次大戦下の日本経済の発展を背景に、入学者は急増し、すでに大学部設置の構想も芽ぐんでいた。デフォレスト院長はあらためて学院精神の確認のため、前々年「創立者記念日」を制定し、タルカット女史の開拓者スピリットの想起を強く呼びかけている。無性格に時代に流される学校にはしたくなかつたのである。そのため一人の文学者の苦悩に寛容でなかつたとも思える。

しかし有島と女学院との縁はこれで切れたのではなかつた。有島書簡によれば彼はは大正八年五月にも講演のため来校している。デフォレスト院長の度量の広さも見事だし、有島も又喜んでよくきたものだ。彼もまた神戸の町を愛した文学者の一人である。



高 道 基

大正十五年、東京生れ。
同志社大学神学部、大阪大学
学部大学院修了。同志社大学教
授をへて、現在神戸女学院大学
教授・学生部長。専攻は比較思
想史、宗教学。

橋本関雪展によせて

関雪と神戸

橋本

歸一〈美術評論家〉

筆者は橋本関雪氏の孫にあたり、橋本関雪遺囑財産白沙村
荘事務局長



関雪が死んで、も早三十三年になる。と、もっともらしく書き出しては見たものの、たちまちにして「関雪って何ですか」といった問いかけが聞えそうな気がする。そりゃそうだ。三十三年前に死んだと言うと、今じゃ死んだ後に生れた人の方が多いんだから、無理もない。関雪の本場、京都の祇園街では、さすが今だに「関雪さん」と言えば通りがよく私も少しは助かっているが、しかし、神戸でも花隈辺りの古老なら詳しい話を知っていると思うのだが。

橋本関雪は京都画壇の雄として知られた日本画家だが、生れたところは今の生田区楠町に当る、当時坂本村

である。関雪自身、生れた家について次のように記している。「廣厳寺、わしが腕白時代の遊び場所だ。寺は安養寺と二つ並んでその前に大小二つの池があった。父の家はその池を隔てて寺と向き会っていた。学校がはねて家へ帰ると鞆を玄間へ抛り込むと同時に軒先にきて立ってあるモチ竿をかつぎ出すと蜻蛉をかに池へ走ったものだ。寺の前が少し坂になっていて、右側に大きな松に囲まれたお宮さまがあった。たしか五の宮といったと思う」父というのは、当時漢学者として少しは知られていた海関である。

この文章から、関雪の生家をさがしてみると、現在神



防空壕 昭和17年（東京国立近代美術館蔵）



夏夕 昭和16年（足立美術館蔵）

この空珍という暫間は相当の偏屈者であったらしいが、関雪の頑固も一筋縄で行かぬところがあったから、気脈相通じたのかも知れぬが、如何にも若き日の関雪の面目躍如たるものがある。

今一つの話は、東京の話ではあるが、後に「ヒゲの伊之助」で知られた十九代式守伊之助との話がある。伊之助の「関雪先生の思い出」という一文によると、関雪が文展開催に伴い、二度目に上京した折、最初は妻ヨネも連れずに、当時の友綱部屋に居候をしていたらしい。そこで二人は知り合ったのだが、関雪を友綱親方に紹介したのが花隈の料亭玉川の主人であると書かれている。

こうしてみると関雪の若い頃は随分と花隈に縁があったらしく、最初に書いた通りであるが、京都に定住した後も、折に触れては、神戸に足を運び、若き日を懐しんでいる。いわば神戸は関雪にとっては文字通り生れ育った故郷であるが、一つには戦時の混乱期にその生涯を終えたためか、これといって、神戸には関雪をしのぶものもなく、又しのぶ催しも行われなかった。ただ、兵庫県政百年記念の「郷土百人の先覚者」に選ばれたのが、せめてもの慰めであったが、今年の三十三年を期して、県立近代美術館で「橋本関雪展」が行われ、又ゆかりの大倉山公園の一角に、高さ九尺、巾七尺というかなり立派な庵治石の記念碑が建つこととなった。

実際、関雪の作品を訪ね歩いて、大作の多くは兵庫県下に所蔵されているのだから、時期遅きに失したとも言えぬこともないが、最近、彼の作品が地味ながらも各種の美術全集に再び取り上げられるようになり、又京都の遺郎白沙村荘の公開十年と相俟って、戦後の若い人々の中にも、関雪の名前に関心を持つ人が増えている現在、生誕の地で大きな催しが行われることは意義深いものがあるろう。橋本関雪展は四月二十三日から五月二十一日迄開催され、又記念碑は五月二十二日に除幕の予定である。この機会に広く神戸市民の心に「関雪さん」が根を下してほしいと思っ

ている。

ところが、ここに注目すべき逸話がある。関雪が僅か二十一才で父の許しを得ぬまま岩見ヨネと結婚した頃、しばらく花隈の貸席屋の二階に居候をしていたことがあるらしい。その時、関雪に惚れこんで世話をしていた暫間がいたという。その暫間の名前はどうかやら本珍と言うらしく、元は大阪俳優の市川多喜七、後に空々庵八道という煎茶の宗匠をしていたという。

を下してほしいと思っ

MAKE UP WITH ROYAL



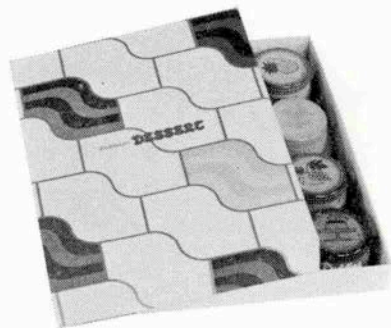
イヴ・サンローラン ピエール・カルダン
 ギ・ラロッシュ クリスチャン・ディオール
 ニナ・リッチ ランバン
 および マルヴィッツ メツラー レイバン
 ローデンストック ペンナーライン などの
 メーカーサイド専属デザイナーによる
 サングラス ファッショングラス 続々入荷
 目下品揃い どうぞ!!

 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
 三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです
 三宮店は第2、第3水曜日がお休みです

5℃の風
 ユーハイム デザート



ドイツ菓子
 Fahrenheit's
 ユーハイム®

このマークのお店でお買い求め下さい

本 店 神戸市生田区下山手通2-31 TEL (078)331-1694
 三 宮 店 神戸市生田区三宮町3-15 TEL (078)331-2101
 さんちか店 神戸市生田区三宮町1-1 TEL (078)391-3539
 西ドイツ本店 フランクフルト・アム・マイン・アム・ザルツハウス1
 ゲーテハウス内 TEL (0611)280262-3